

(1) 地域総合研究センターの活動報告 (2004.4~2005.3)

地域総合研究センターは、地域社会と大学を結び、地域の課題に取り組むとともに、大学の教育・研究活動をより意義あるものにする様々な活動をおこなっている。

ここでいう地域総合研究センターの活動は、おおよそ次の四つに分類されるであろう。

- ① 地域の活性化のために、研究センターが独自に企画立案し研究を進めている活動
- ② 地域社会から、大学（代表者としての学長を含む）に対して協力依頼があったものをセンター研究員である本学教員（グループ）が引き受けて行っている活動
- ③ 地域社会から、地域総合研究センターに対して協力依頼があったものに対して、センター研究員である本学教員（グループ）引き受けて行っている活動
- ④ 地域社会から、研究分野からみて妥当と思われる教員個人に対して協力依頼があったものを、その教員がセンターに持ち込んで行っている活動

表1. 地域総合研究センターの活動の分類

①~④のどのルートであれ、センターとして引き受けた研究・調査活動に対しては、大学としての活動であり、地域総合研究センターの予算を利用して、資金的な裏付けがある程度なされるよう検討している。また、広報面などでも、担当している教員個人ではなく地域総合研究センターとしての活動であるので、事務職員の支援を受けることが出来るように検討している。

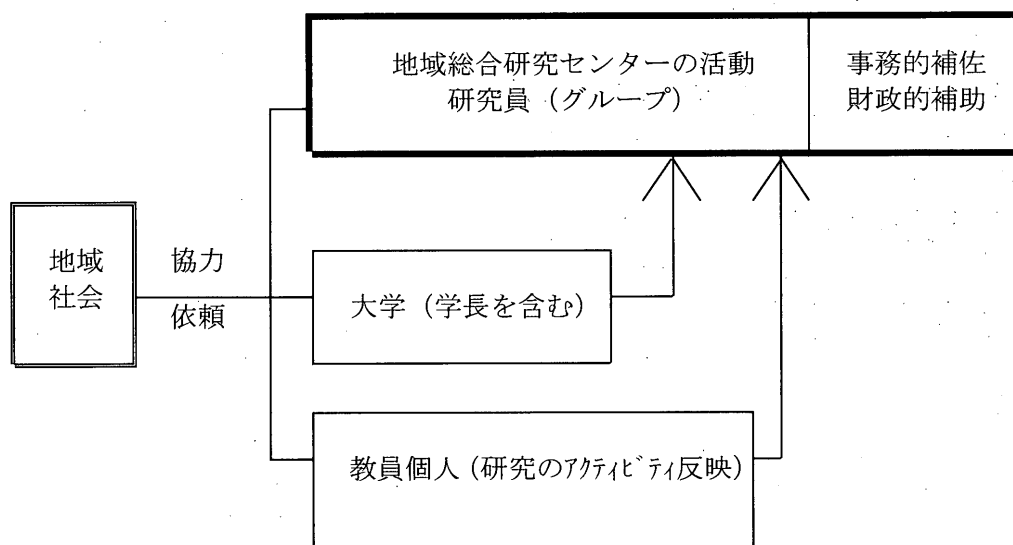


図1. 地域総合研究センターの活動の受け入れルート

ここでは、2004年4月より2005年3月までの活動を、以下の項目について報告するものである。

1. 地域づくり・まちづくりに関する講演会などの開催

- ・「人にやる気・村に活気・地域づくり」学習会 Part2
「せせらぎ遊園、水の町 — 甲良町 町づくり —」
- ・オープン・カレッジ・パネルディスカッション
「女性起業家に学ぶ 街おこし・村おこし・自分おこし」

2. 地域づくりの事業の実施と支援

- ・山形村の地域福祉経営に関する事業
- ・豊科町まちづくり実践活動事業
- ・ユニバーサルデザインの普及活動
- ・アルプスフロント懇談会
- ・国土交通省飯田国道事務所市民参加型道づくり事業

3. 生活記録による世代間交流

- ・三郷村及木老人クラブとの交流学習会

4. コミュニティ・ビジネスについての研究・実践活動

- ・地域におけるコミュニティ・ビジネスの普及
- ・モデル事業の実施
- ・コミュニティ・ビジネスを通じた教育活動とその研究

5. 地域における学習事業への参画・支援

- ・新聞をのみこむ講座
- ・成人講座「女と男きらめき教室」

6. 地域社会への囲碁の普及と世代間交流の活性化

- ・「ヒカルの碁」囲碁大会の開催
- ・囲碁教室の開催
- ・「水廉洞悟空追悼囲碁大会」の開催
- ・梓乃森祭におけるプロ棋士による指導碁の実施
- ・窪田空穂記念館 「一就塾」運営への協力
- ・中信地域における各種囲碁大会への協力

1. 地域づくり・まちづくりに関する講演会などの開催

① 「人にやる気・村に活気・地域づくり」学習会 Part 2 「せせらぎ遊園、水の町－甲良町 町づくり－」

「人にやる気・村に活気・地域づくり」学習会は、自らの地域の課題を捉え、地域の個性や風土を生かして、知恵を絞って地域づくりに取り組んでいる地域とそれを担う人々に学び、実践につなげていこうという趣旨で2003年度よりスタートした。2003年度は、岐阜県清見村のむらづくりの取り組みをテーマに村の助役の松葉氏の講演と実際の村の取り組みを現地で学ぶ研修ツアーを実施したが、2004年度はグラウンドワーク方式によって集落からのまちづくりを進めている滋賀県犬上郡甲良町について学習をおこなった。

平成の大合併の嵐が吹き荒れ、地域が動揺する中で、人々が暮らす足下である集落やコミュニティを大事にして、そこから地域づくりを考えていくという取り組みは、まさに時機を得た学習会となった。

まず2004年6月25日に、甲良町のまちづくり課企画係主査の山田禎夫氏による講演会を「せせらぎ遊園、水の町－夢現塾からの出発」と題して、松本大学にて開催した。山田氏は、実際の経験を踏まえながらわかりやすく話をされ、まちづくりのきっかけや経緯、住民の学習と参画、公共事業のあり方、「グラウンドワーク方式まちづくり」、まちづくり条例などの行政の努力、集落の自治などの様々な課題について学ぶことができた。

さらに講演会での学習をさらに深めるために、9月16日から1泊2日の行程で、大学のバスを利用して、本研究センター玉井袈裟男研究員のコーディネートによって、22名が参加して甲良町への研修旅行をおこなった。研修では、山田氏の案内で、町内の史跡・文化財と町内13集落による「グラウンドワーク方式まちづくり」の成果などを視察するとともに、甲良町まちづくり協議会の委員の方々と意見交換と交流会が開かれ、地域と地域を担う人たちから多くのことを学ぶことができた。また松本への帰途、長浜市に立ち寄り、中心街の活性化の具体的な事例を視察した。講演と研修旅行の詳細な内容については、報告を掲載（P.317）している。

② オープン・カレッジ・パネルディスカッション「女性起業家に学ぶ 街おこし・村おこし・自分おこし」

地域づくりにおいて、女性がいきいきと活躍することは、もっとも重要な鍵である。そして地域には多くの元気に地域を担う女性たちがいる。その女性たちから学び、それを通して女性の地域づくりのネットワークを創っていこうという趣旨で、オープン・カレッジ・パネルディスカッション「女性起業家に学ぶ 街おこし・村おこし・自分おこし」が、2004年8月10日に開催された。女性たちの起業事例を語っていただき、共生社会の女性による地域づくりの可能性について考えることを目的として、本研究センター研究員の今井朗子氏をコーディネーターとして、各地で自ら起業して活躍されている女性3名をパネラーとしてパネルディスカッションをおこなった。滋賀県でブルーベリーに栽培・加工に取り組むブルーベリーフィールズ紀伊国屋代表岩田康子氏、岐阜県でトマトを活用したむらづくりに取り組む明宝レディース社長の本川栄子氏、岡谷市で商店街の活性化に取り組む岡谷市中央通りおかみさん会会長の矢崎京子氏に、それぞれ自らの実践を語って頂き、コメントーターの長野県監査委員の樽川通子氏も加わって、女性の生き方から社会との関わり、地域づくりなどについて活発な議論をおこなった。このシンポジウムは、女性の地域づくりのネットワークづくりとして期待されることから、今後も取り組んでいく予定である。なお、講演の詳細な内容については、報告を掲載（P.361）している。

2. 地域づくりの事業の実施と支援

本センターは、地域づくりに関わる研究を行うとともに、地域のニーズに応え実際に参画しながら、地域づくりを支援することを活動の重要な柱に据えている。

合併問題も一段落し、合併した自治体も自立を選択した自治体もそれぞれ地域づくりに腰を据えて取り組むことが求められている。また行政に依存せず、住民が自ら地域を創造していくために、行政と住民の協働や住民による主体的なまちづくりへの取り組みが各地で展開されている。したがって、2004年度においては、これらの地域の動きに応じて、以下のような地域づくりの事業の実施と支援をおこなった。

1) 山形村の地域福祉経営に関する事業

山形村と松本大学は、2002年度から山形村の地域福祉経営についての共同事業を実施している。2004年度は、住民が参画して地域の未来や地域福祉のあり方を考える「創ろうやまがた・プロジェクトY」を新たに開始し、大学からは教員（木村晴壽・高橋雅夫・白戸洋・増尾均）と学生が参加して、地域づくりに関するワークショップを実施した。

2) 豊科町まちづくり実践活動事業

南安曇郡豊科町は、周辺の町村とともに合併し安曇野市となる予定であるが、行政の枠組みが大きくなることで課題となる、地域のきめ細かな課題への対応を住民が主体となっており、住民と行政が一緒に学習し実践するという「豊科町まちづくり実践活動事業」を実施している。この事業については、本学教員（高橋雅夫・白戸洋・根本賢一・矢崎久）がコーディネーターとして参画し、地域行政コースのゼミナール活動にも位置づけて協力をおこなっている。

豊科町が開催する「健康づくり講座」を住民が企画し実施する事業、7月に開催される「あずみの祭り」において住民がイベントを企画して実行する事業、さらに重柳区と成相区という2つの集落における「高齢者のサロンづくり」や「子どもの地域での育成」の事業の企画・実施という集落モデル事業について、合計11回にわたり、それぞれ住民によるワークショップや話し合いなどをおこなったが、多くの学生が参画し貴重な経験を得たとともに、具体的な地域づくりの動きへとつながった。

3) ユニバーサルデザインの普及活動

① まつもとユニバーサルデザインネットワーク研究会への参加

松本におけるユニバーサルデザイン（以後UDと略す）の研究は緒についたばかりで、昨年松本UDネットワーク研究会が民間企業を中心として立ち上がっている。そして昨年度はUDを考え方を広め紹介する目的で、松本で初めての記念行事も行われた。本学、特に短期大学部住吉ゼミの学生が行事の運営にも協力した。その様子は、UD誌第14号に紹介され、その後の活動はUD誌第15号でも詳しく記述されることになっている。本学がこの研究会の構成メンバーになっているだけでなく、本センター研究員（住吉広行）がこの研究会・会長に就任しており、総合経営学部の教員（清水聡子）も参加している。

平成17年度も第二回目の大会を開くべく、準備中であるが、さらにUDの概念を普及させるべく、勉強会のほかにUDオペラを開催しようと計画を練っている。

② ユニバーサルデザイン住宅リフォーム研究会の活動

また、UD住宅リフォーム研究会も松本商工会議所の音頭とりで立ち上がっており、こちらでも住吉教授が会長職を引き受けている。障害をかかえて住宅リフォームしたいのだけれど、

どこに相談すれば安心して任せられるかわからない状態を何とか解決し、建築関係の業者にとっては、新しい注文を受ける窓口としての期待も高かった。これらを一挙に解決しようと取り組まれたが、何度かの学習会や年度末には説明会も開催し、多数のお客を集めることが出来ている。発注者と受注者とを引き合わせ、新たなビジネスチャンスを拡大するという意味では、大成功を収めたといえる。「ユニバーサルデザイン住宅リフォームのお手伝い」という冊子の発行も行われている。今後これをNPO法人化しようとする動きもあり、引き続き住吉教授に相談役への就任依頼が来ており、白戸助教授にはNPO法人化する場合の基本問題についての講演依頼も来ている。

4) その他

以上の事業に加えて、NPOなどをネットワーク化し、市民主体の地域づくりを目指す「アルプスフロント懇談会」、グリーンツーリズムに関わる事業、農業を特産品の開発で活性化させる事業、市民が公共事業に積極的に参加して地域に貢献する道づくりを模索していこうという国土交通省飯田国道事務所市民参加型道づくり事業など、様々な地域・分野で地域づくりの実践活動へ参画し、それらを踏まえた研究を実施した。

3. 生活記録による世代間交流

2002年度より始まった生活記録による世代間交流「三郷村及木老人クラブとの交流学習会」は、ほぼ一年間の生活について記録することができ、その成果を取りまとめる段階となった。2004年度は、原則として毎月第三土曜日に、及木公民館において学習会を開催し、主に「食」と「冠婚葬祭」について記録作りをおこなった（岩原正典・玉井袈裟男）。

一方、交流学習会に参加した高齢者のグループによって、学習会で見直された農村における生活文化や知恵をより多くの人々に伝えるべく、近くに開設された「国営アルプスあずみの公園」に再現された民家において、毎週土日曜日に安曇野の歴史と生活文化を紙芝居として、ボランティアとして「実演」している。

4. コミュニティ・ビジネスについての研究・実践活動

松本大学では、身近な地域で住民が主体的に地域を創造していく試みを、様々な方法で支援している。特に、コミュニティの課題を小さなビジネスを興すことで解決していく、コミュニティ・ビジネスに取り組んでいる。2004年9月からは、大学の教職員と学生が参加して、コミュニティ・ビジネスに取り組んでいる「ながのコミュニティ・ビジネス支援センター」に、専任のコーディネーターを配置し、新たに事務所も開設して、本格的な取り組みをおこなっている。「ながのコミュニティ・ビジネス支援センター」を中心として、本学では、以下の活動を実施している。

1) 地域におけるコミュニティ・ビジネスの普及

- ・コミュニティ・ビジネスに関する講演やセミナーの開催
- ・具体的な事業に関するアドバイスなど

2) モデル事業の実施

- ・松本一本ネギプロジェクト（JA松本市女性部）
農業の活性化、女性の交流と社会参画の実現を目的として、地域の特産品である松本一本ネギを活用した食材の開発をおこなっている。2004年10月には、大学の生協で一本ネギをつかっ

た食材の販売や一本ネギをテーマにしたコミュニティ喫茶「キッチンこすもす」が開店し営業を開始した。

- ・柿プロジェクト

演習の一環として大学の地元新村地区の民家の柿を学生が収穫し、地域の人とともに干し柿やジャムなどに加工し、柿を使った食材の開発をおこなった。

- ・むかごプロジェクト

「むかごプロジェクト」とは、利用されずに捨てられていた、「長いも」の肉芽である「むかご」を収穫し販売するもので、住民のネットワークづくりと地域福祉の推進を目的としている。山形村社会福祉協議会によって開始された事業であるが、2004年度は住民が主体的に事業を進め、住民自治の実践活動として発展している。

3) コミュニティ・ビジネスを通じた教育活動とその研究

本学では、学生に体験的な学習の場として、コミュニティ・ビジネスを活用している。具体的には、「NPO」などの関連する講義の中でコミュニティ・ビジネスについて取り上げるほか、演習においてコミュニティ・ビジネスのアイデアづくりのワークショップや実践者の講義がおこなわれた。また、講義のアウトキャンパスとしてNPO 法人と共同で麻布十番町におけるベロタクシーの現状や新村地区公民館と共同で巣鴨商店街の視察を実施し、さらにフィールドワークでは、ベロタクシーに試乗しながら中心商店街の課題を把握し、タウンガイドづくりや提言をおこなうなどコミュニティ・ビジネスの事業を活用した教育を展開した（高橋雅夫・白戸洋・柳沢聡子）。

これらは、大学教育の様相を強く呈しているので、地域総合研究センターの活動というよりは、松本大学での教育実践活動記録という視点から、近い将来にまとめる必要があると思われる。

5. 地域における学習事業への参画・支援

本研究センターでは、松本市をはじめとする県下の公民館などの社会教育機関と連携し、地域における学習活動への参画と支援を行ってきた。2004年度においても引き続き、様々な学習活動に取り組んだ。例えば、松本市南部公民館との共催事業である「新聞をのみこむ講座」は、毎月一回、本センター研究員（高橋雅夫・増尾均）がコーディネーターとなって、学生と一般市民とともに、新聞記事を題材として社会や地域について議論する講座である。また、塩尻市塩尻東公民館の成人講座「女と男きらめき教室」は、地域の課題について男女共同参画の観点から住民が手作りの講座を企画・運営するもので、本センター研究員（白戸洋）が総合コーディネーターとして参加している。その他にも松本市中央公民館の「NPO学習会」や佐久農業普及センターの「ふるさと創造リーダー塾」、長野県市町村課の「まちむら解体新書塾」などに共催者やコーディネーター（玉井袈裟男・白戸洋）として関わっている。さらに地元新村公民館の事業には、日常的に協力し、大学（学生会・エクステンションセンター）としてのみならず、学生も積極的に参加している。2004年12月には、このような活動を学ぶ目的でアジア各国のユネスコなどの教育関係者が本学に来学し、研修を行った他、京都府立大学の社会教育ゼミなどの実習で本学と公民館の連携がとりあげられるなど高い評価を得ている。また、2004年6月に本学で開催された日本ボランティア学会や12月に開催された経済教育学会においても、このような取り組みが取り上げられている。このような公民館などが実施する講座や学習活動への参画に加えて、様々な講演会やシンポジウム、セミナーなどに本センター研究員を講師などとして派遣している。（詳細は松本大学アニュアルレポートを参照のこと。）

6. 地域社会への囲碁の普及と世代間交流の活性化

松本大学は短期大学部において、囲碁の基礎、囲碁入門という講義科目（担当者は峯岸芳夫講師）において、伝統文化の若い世代への継承を考えている。それと同時に、地域社会における様々な囲碁のイベントに協力するだけでなく、自らも「ヒカルの碁」の大会を主催したり、中信地区における各種囲碁大会を誘致し、大学構内で頻繁に囲碁大会を催すなど、囲碁の普及活動には力を注いでいる。

具体的には、日本棋院長野県本部中信地区本部主催で開催される、年末（12月）の囲碁団体戦と松本ケーブルテレビが主催する三冠囲碁大会（通常2月開催）、それに高校生や小中学生が関与する大会などに会場を提供している。特に授業を開講している関係で、碁盤・碁石が十分に備えられており、また、高速道路のICからも大学は近いので、最近では囲碁大会のメッカとしての役割を果たすまでになっている。他にも、囲碁の普及を兼ねて、「水廉洞悟空追悼囲碁大会」や「ヒカルの碁」囲碁大会、それに地域の囲碁愛好家や初心者を相手にした囲碁教室を独自に催している。更に、日本棋院からプロ棋士を招き、指導碁を頻繁に実施している。これらは主に、住吉広行・峯岸芳夫の二人が中心になって展開している。

さらに、市民タイムス杯での競技委員長（住吉）を引き受けたり、窪田空穂記念館主宰の「一就塾」の運営に協力（住吉・峯岸）するなど、中信地域における囲碁の普及活動には目覚ましいものがある。地域の囲碁愛好家からは、松本大学の姿勢に対して感謝されているというのが実情であろう。